

2009年4月27日

文責：山田 肇

**メディア集中に関する研究会  
第1回（2009年4月24日）  
東洋大学大手町サテライト**

**議事次第**

- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| 1) 主査あいさつ               | 主査：中村 清   |
| 2) 「メディア集中に関する研究会」にあたって | 幹事：山田 肇   |
| 3) インターネットにおける集中について    | 浅利光昭、玉川博章 |
| 4) その他                  |           |

**議事概要**

- 1) 中村主査よりあいさつがあり、研究会がスタートした。
- 2) 過去の経緯と今後の活動について、山田幹事より説明があった。「この研究会は国際プロジェクトと連携するもので、メディア集中（とりわけボイスの集中）について定量的なデータを用いて各国比較を進め、そこから政策的な示唆を得ることを目的としている」「研究会の前身は特定非営利活動法人・情報通信政策フォーラムでの一年間の活動であり、そこで収集されたテレビ、新聞などの集中度評価結果はすでに国際プロジェクトに報告されている」などの説明があった。
- 3) インターネットにおける集中について、浅利氏、玉川氏より説明があった。両氏から「いわゆる学会発表のように研究結果を報告するというスタンスではなく、むしろ、この分野での集中度評価に資する生データをたたき台として提出するものである」と最初に立場が表明されたので、資料は公表しないことになった。
- 4) インターネット接続部分の集中度について、総務省の競争状況評価の結果に基づくデータ 1 と、日経産業新聞の主要商品・サービスシェア調査に基づくデータ 2 の二つが報告された。前者では HHI 指数が 1500 前後で、後者では 2500 前後で推移しており、差が目立った。しかしいずれにしても、インターネット接続は「スイッチの相互接続」に相当するもので、ボイスをコントロールするわけではない、との意見が表明された。
- 5) ブロードバンド接続の契約数をもとにした集中度の評価結果がデータ 3 として報告された。これについても「物理層の相互接続」に相当するもので、ボイスをコントロールするわけではない、との意見が表明された。
- 6) 検索エンジンの集中度について、検索数をもとにしたデータ 4 とページビューをもとにしたデータ 5 が報告された。いずれも HHI は 4000 から 6000 と、寡占が問題にされる状況にあった。前者と後者では Google のポジションに大きな差があり、前者では第

二位でかつ 38%を占めるのに対して、後者では Yahoo の独占 (76%) が著しいとの結果になっていた。Google が純粹に検索エンジンとして用いられることが多いのに対して、Yahoo はポータルとして各種情報の閲覧にも利用されているという、利用形態の相違に基づくものと解釈された。

- 7) これらのデータ 4 とデータ 5 はボイスの集中の観点からいっそうの分析を必要とすることから、特にサービスは提供しているが「その他」としてまとめて扱われている中小各社の市場シェアを HHI にきちんと反映させるように、報告者が工夫して (たとえばその他を会社数で割り算して仮想的なシェアを出し、それを足しこむ) 再度数値データを提出することになった。
- 8) 次回は 5 月 29 日金曜日午後 1 時から 3 時に開催し、情報通信学会平成 21 年度学会大会への報告内容について検討することになった。なお、たたき台は山田肇幹事が作成する。

以上